

園のリーダーのために

保育ナビ

1

2017
〈10/12〉

特集

保育体験の 新しいデザイン

— 神奈川県発、Win-Win 連携に学ぶ —

『保育ナビ』スペシャル対談
何気ない会話から
伝わる「情」がある。
そのよさがわかる人に
育ってほしい。
立川志の輔×無藤 隆

海外保育事情
ブレア政権以降の
イギリスで

突撃! 隣の園環境
読書大好きな子どもに
育てるための
保育環境の工夫



保育ナビが伝えたいこと

地域の養成校と保育現場が手を携えて

今月の特集では、神奈川県・養成校と保育現場が連携し、保育体験の仕組みを創り上げていった過程をご紹介します。対話することでお互いの思いのズレに気づき、そこを乗り越え、未来の保育者を育てるといふ共通の目的のために組んだタッグはとても強力です。地域で保育者を育てるこの好事例から、ほかの地域にも展開可能な保育者養成のあり方が見えてきます。——保育ナビ編集部

巻頭

小さな太陽 その後

園長室

『保育ナビ』スペシャル対談

何気ない会話から伝わる「情」がある。
そのよさがわかる人に育ってほしい。
立川志の輔×無藤隆

管理職のアンテナ 28

時代を読む 園の理念から再点検する
人材確保をどう考えるか

認定こども園のいま
北海道・幼保連携型認定こども園
苫小牧もも花幼稚園の場合(その2)

認定こども園における法律問題 Q&A
休職・復職

これからの園のかたち 2016
東京都練馬区 茶々むさしせき保育園 33

特集

保育体験の新しいデザイン
——神奈川県発、win-win 連携に学ぶ——

『ピックアップ 研究会報告』 全県一丸となって取り組む教育・保育の質向上の歩み〈兵庫県〉 20



Check 2

ミスマッチが多かった保育者養成校と保育現場の連携。そのあり方を見直し、互いの存在を認め合い、対等な関係性で保育者を目指す人材の育成に取り組むことの魅力や可能性、保育実習をも変える新たな連携の形を提案します。



Check 1

異分野、異業種のリーダーをお迎えし、経営やマネジメント、保育の世界との共通点や保育でも活用できる思考法を教えていただくコーナーです。今回は、言葉や落語の世界観を大事にされる立川志の輔さんに、ご自身が語る「落語国」の住人たちのすてきさや、お弟子さんを育てる際に大事にしていることなどをうかがいました。

新制度時代の動き

国の動きを読む! 研究者の目 2016
待機児童対策の動向と
保育人材・保育の質への配慮 22

地域別 持続可能な園になるために

千葉県香取郡多古町

幼稚園・保育所事業を再編、
町の子育てを一手に担う複合施設

「多古こども園」 24

人材育成

園長、リーダーシップとビジョンを語る
今月のリーダー

渡辺英則先生

(神奈川県・認定こども園ゆうのりもり幼保園) 38

保護者・地域と一緒に魅力ある園づくり

認定こども園は、子ども・人のためのビオトープ 40

今日からできる! より良い職場づくりの工夫

管理職の役割 44

海外保育事情

ブレア政権以降のイギリスで 46

社会とつながる幼稚園になるための園長の役割

元祖・銭湯入浴体験ツアー 48

保育マネージャー養成講座

—管理職のスキルアップと園の保育の質向上のために—
保育理念と組織マネジメント(事例編) 50

本物志向 今の時代を生きる!!

諦めない限り、人育てに失敗はない 52

保育内容

ことわざや四字熟語に見る
防災・危機管理のための12の習慣

「危機管理」一期一会 54

0・1・2歳 心の育ちと保育者の専門性

2歳児・心の育ち(3) 56

Learning Story + Teaching Story
育ちを支え、保育の質を高める保育記録

記録から評価へ(幼児期を中心に) 60

—震災後の保育から— 保育の本質を見つめる

保育者の専門性を

地域の活性化に役立てる 62

指導計画作成のヒント

「子ども像」を目指して就学前に必要な体験を考える—
乳児の育ちと生活体験を考える 64

汐見稔幸本音エッセイ 地域の中の園これからの姿

子どもの遊びと生活の場を町中に 66

突撃! 隣の園環境

読書大好きな子どもに育てるための

保育環境の工夫 68

子育て・子育て探訪 —名作童話の奥にある育ちの香り—
つるのおんがえし 70

アフカルト

Pick Up!

情報／書籍 71

フレーベル館通信



座談会

養成校
×
保育現場

ミスマッチの気づきから始まった 新たな連携の可能性

多くの学生が教育実習・保育実習に不安を感じている……!? 養成校と保育現場が共に未来の保育者を育てるために行う実習が、学生にとってマイナスに働くケースがあるようです。神奈川県養成校、園がそれぞれの思いのズレに気づき、マッチングを試みようとするワーキンググループは、どのようなきっかけからスタートしたのでしょうか。

井上先生（以下、井上）…保育者養成の「ミスマッチ」から話を進めたいと思います。坂本先生、どんなことを感じていますか？

坂本先生（以下、坂本）…伊澤先生が日本保育協会（以下、日保協）神奈川県支部長に就かれて、養成校と保育現場できちんと連携をとってきたいという提案があり、私がそのワーキンググループのリーダーを任せていただいたのがスタートです。私は園長ですが、養成校で講義もさせていたでいて、両者の思いを知りました。お互いがよいと思ってしていることが、かみ合っていない。それをミスマッチという言葉で表現してみたのです。

例えば、園側は、最近の学生さんはしつけがなっていないとか、基本的な生活習慣が身につけていないとか、そこに視点がいつてしまう。保育実習には、そもそも保育の魅力に気づかせるという大きなねらいがあるはずなのに、「きちんとできなきや

ダメでしょ」と求めすぎる。そういったメッセージが強すぎて、学生は保育への魅力を感じなくなってしまう現状があります。

井上…伊澤先生、養成校と保育現場が連携して保育者を育てようと考えたきっかけは？

伊澤先生（以下、伊澤）…日保協神奈川県支部では、平成22年度から年に1回、県内の保育士養成校と合同会議を行っています。背景にあったのは将来的な保育士不足です。保育現場に実習生や保育人材についてアンケートをとると、人間性、マナー、保育の姿勢などが課題に挙がったのですが、しかし、それは養成校にしてみれば具体的にどうということなのか。園側が求めていることも抽象的でした。

井上…保育者を育てるための実習なのに、育たなかった。最悪の場合、保育に魅力を感じなくなって就職もしたくない。他方、不足していく人材をどのように育てていくか考えれば、今



保育体験の 新しい デザイン

神奈川県発、win-win 連携に学ぶ

ミスマッチが多かった保育者養成校と保育現場の連携。そのあり方を見直し、互いの存在を認め合い、対等な関係性で保育者を目指す人材の育成に取り組むことの魅力や可能性、保育実習をも変える新たな連携の形を提案します。



Contents

座談会 養成校×保育現場
ミスマッチの気づきから始まった新たな連携の可能性……………P11~15

コーディネーター：井上眞理子先生（洗足こども短期大学）
参加者：伊澤昭治先生（五反田保育園）、坂本喜一郎先生（RISSHO KID'S きらり）、
金元あゆみ先生（相模女子大学）、松山洋平先生（和泉短期大学）

「ふれ合い体験」のすてきな効果……………P16~19

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1 ふれ合い体験にはどんな効果があるの？ | 2 実施の手続きとポイント |
| 3 参加者の声 | 4 受け入れ園 保育者の声 |
| 5 これからの展開 | まとめ |

写真：日本保育協会神奈川県支部「ふれ合い体験」受け入れ園にて撮影



伊澤昭治先生
五反田保育園園長、日本保育協会神奈川支部長

坂本…神奈川支部の
会員約150園に、最
初に「ふれ合い体験」

力を感じてもらうため、気軽に保育現場に遊びに行ける機会として平成25年度に始めました。ミスマッチを乗り越えるために、この「ふれ合い体験」がどのように機能し、どのような効果があつたのでしょうか？

伊澤…園側からすると、4月1日から先生と呼ばれるとなると、しなければいけない、もしくはこれだけのことをやってほしいという思いが強くて、実習でも多くを求めてしまいます。学生の良さはわかっていただけで、実習日誌もしくは所作や言葉遣いについて、つい指導したくなる。そうした実習がきっかけで保育者になることを諦めてしまうのは人材の損失です。そこで「ふれ合い体験」を始めたのですが、最初は園側に説明してもなかなか理解してもらえませんでした。

の実施を呼びかけた平成25年度、実際に手を挙げた受け入れ園は41園しかありませんでした。それでも諦めずに仲間にもメッセージを送り、28年度には90園、過半数を超えました。学生の参加数も27年度は707人、28年度も803人と毎年増えています。地道な努力は大事です。

井上…ボランティアという方法もあると思うのですが、どういう違いがありますか？

伊澤…ボランティアでという議論もありましたが、受け入れる園側が学生をお手伝いして見えてしまうなど、気軽にという雰囲気でなくなってしまうのではないかと。そこで、坂本先生の提案から「ふれ合い体験」として、「遊びに来てもいいよ」くらいにしました。期間も、ボランティアでは1週間、1か月の長期も検討していたのですが、とりあえず半日くらいで「楽しかったね」と帰ってもらうほうがよいと考えました。

実習園が保育のすべてではない——視野が広がる効果

井上…養成校にとって、実習やボランティアとの違いは？

松山…和泉短期大学では、1年生の夏休みに「ふれ合い体験」に行くことを奨励しています。受け入れ園の先生に大学へ来ていただいて、現場の写真なども使いながらの説明を聞き、学生は自分で受け入れ園のリストから園を選んで電話をかけて予約する。そのような形で保育学生として第一歩を踏み出しています。平成28年度は幼稚園や福祉施設でのボランティアも含めて5か所は行ってみるようにとしました。1年生の夏休みでは、養成校で学んだ知識をもったうえで体験し、実践の場で得たことを後期の授業に活かして取り組むことができ、成果が出ています。実は学生にとっては実習園での印象がすごく強く残ります。今までは保



コーディネーター
井上真理子先生
洗足こども短期大学専任講師、日本保育協会神奈川支部 保育士養成校との連携を考えるワーキンググループアドバイザー

の関係はよくないという実感もあった。学生を送り出す養成校側からは、それをどう見えていますか？

金元先生（以下、金元）…実は養成校も、あれもこれもと授業の中で求めすぎていました。ただ、養成校としても園側の要望をどこまでキャッチできていたかというと、齟齬もあつたかと思えます。どこに行っても通用する人材を養成しようと、A園では3つのことしか求めていないのに、B園でそれとは違う3つのことを求めていたら、併せて6つのことを学生に求めてしまう。たくさん求められすぎて、実習以前に保育の道を諦めようかなと思ってしまう現実が確かにありました。

松山先生（以下、松山）…これまでとは違う学生の姿が見えてきています。例えば、学生は評価をとてにします。保育現場でひと言注意されただけでダメと評価されたらと受け

取るとか、先生の顔をうかがって対応を決めるとか。他者からの評価を気にする学校生活を送ってきて急に養成校で変えようとしても無理がある。

そうすると、養成校、保育現場、そして高校との関係も含めて、連続性のなかで保育者を育てていくという姿勢が必要になってきます。その意味でも、ワーキンググループでそれぞれ本音を出し合おうというのは大きな一歩だと思います。

気軽に「ふれ合い体験」で魅力を伝える

井上…養成校で1年生にアンケートをとると、90%が実習は不安だと答えています。では嫌なのかというと、嫌ではない。ただ不安だと。園側が期待するような人間としてきちんとふるまえるか、かつ自分の体験にしても乏しいという感覚もあつて、例えばお箸の持ち方さえ不安なのに大

丈夫なのかと気になったり。そうなる

と、実習期間をやり過ごすことで精いっぱい。これでは果たして保育のことを学べるのかと愕然とします。

坂本…園側が学生さんに伝えるメッセージが少し違っていたと思うのです。あなたらしくていいのですよと、私たち保育現場の人間が学生さんに伝えるだけで自信がつくと思うし、やはり私の夢は間違っていないかったと感じて、そこが最後の踏ん張りになるのでは。「すてきな夢を叶えてください」、そして「楽しもうよ」と丁寧に伝えていくことです。

井上…そうした思いのもと、実習とは違う形の現場体験を提供してみようと、日保協神奈川支部は「ふれ合い体験」という取り組みをスタートさせています。これは、実習前の学生に、評価とは関係なく保育の魅



坂本喜一郎先生
RISSHO KID'S きらり園長、日本保育協会神奈川支部理事・保育士養成校との連携を考えるワーキンググループリーダー



金元あゆみ先生
相模女子大学専任講師

育園での実習がすごくよい経験だと就職は保育園に行きたい、逆に嫌な印象だったら私は保育園には向かないという単純な評価になりがちで、それは幼稚園でも同じことでした。

ですが、保育実習を終えてから「ふれ合い体験」と保育実習の関係について250人程の学生を対象にアンケートをとると、大半の学生が実習園はこういう保育方針・内容だったけれど、それが保育のすべてではないと理解していたのです。地域あるいは園によってこんなにも違うということを知るだけでも、養成には大きな意味がありました。

保育実習と「ふれ合い体験」の違いについては、「記録がない」「緊張感が違う」の2つが多く挙がります。プレッシャーから解放されて保育を見ることに専念できるのは、今の学生にとって大変よい機会です。

「遊ばせるだけ」が育む ポジティブな内面

井上…養成校にとって、例えば遊びには設定したねらいがあつて、気軽に遊びに行くのではあまり意味がない、そうした葛藤はありますか？

松山…私は葛藤はないけれど……。

金元…私もありません。
松山…ただ、例えば観察実習でしたら、視点をもたずに行かせることはしません。実習ではねらいも大切になります。

坂本…受け入れ園からも、「遊ばせるだけでいいの？」という質問がありました。遊びはいいんです。遊ぶだけでも実は学生は様々な発見をしてきています。それに金元先生の相模女子大学では「ふれ合い体験」に参加したうえで実習園を決めてくれていますね。

金元…相模女子大学は、実習先も自分で選びましょうというスタイルな

のですが、最初は選び方がわからなくて、家から近いところでした。どんな園で学びたいかわからず、むしろ決めてもらえたほうが楽だという学生もいたのですが、「ふれ合い体験」の導入で「この園で学びたい」という気持ちが出てきたようです。

特に実習と違うのは、記録です。実習記録にはネガティブな話がたくさん出てくるのです。例えば子どもの姿にしても保育者とのやり取りにしても、エピソードがすべて反省点。これができなかった、あれができなかった。実習の日誌は読んでいるこちらの眉間にしわが寄ってきます。

でも、「ふれ合い体験」では、うれしい、楽しい、感動したなど、学びの原動力のようなポジティブな記述がちりばめられていて、読んでいてうれしくなります。学生の内面に



松山洋平先生
和泉短期大学准教授

園による実習生の 評価は必要？

坂本…「ふれ合い体験」では、こちらが無理に動かしているのではなくて、学生たちが自然に動いています。

育っているものに違いを感じます。



そのマインドを「気軽に」が引き出している。もう一つ、「学生が主体的にかかわった」。この2つの要素を取り入れたら、保育実習も生まれ変わるかもしれません。

金元…指導する者と指導される者という関係性から、一緒に保育を楽しむ人になれば、見えるものも、生まれてくるものも違うと思います。
井上…「ふれ合い体験」で得られた気づきや学びを、保育実習にどう活かすか、次のステップですね。

松山…ワーキンググループからも実習について語りませんかという提案がありました。園側から養成校側に、実習の評価について課題を投げかけてくださったのですよね？

坂本…そもそも保育現場が実習生の評価をつける必要があるのか、私たちは評価できる立場なのか疑問を感じています。評価は養成校がすればいいのではないか。学生は自分を評価する人に会ってもポジティブには

なりませんが、こうなりたいと思える憧れの先生に巡り合った瞬間、ポジティブになります。そう考えると、評価はないほうがいい。園は、実習生にはこんなすてきな部分がありますよと養成校に返せばいいのでは……。

松山…難しいのは評価票がなくても学生は空気を読んで委縮し、何を求められているのか意識してしまふところでしょうね。ですから、だれが何を評価するのかですね。金元先生のお話にあった「実習生も一緒に保育を楽しむ人」という関係性になれば、不安や漠然とした怖さなどは消えていくのではないのでしょうか。

井上…養成校と保育現場がどのように関係性をつくっていくのか、学生の状況をどのように共有していくのか、課題が見えてきました。ありがとうございます。

(写真撮影・編集協力/渡辺悟)



養成校での「ふれ合い体験」
事前ガイダンス

基本事項
実施月…原則8～9月
活動時間…登園後(9時)～昼食後(13時)
対象…原則2～5歳児クラス
受け入れ園が0・1歳児クラスでの受け入れを認めた場合は、事前の検便を実施した場合のみ、調乳と食事提供にかかわることができる

◆受け入れ園
自らの園の保育や職員の言動などを謙虚に見直す機会につなげる
※就労補助としては参加させない
※就職へ誘導する行為は行わない

◆学生

目的

「ふれ合い体験」実施のためのポイントを掲載します。

2 実施の手続きとポイント

申込手順

- 1 神奈川県支部保育士養成校との連携を考えるワーキンググループメンバーが2～3名のチームをつくる。6～7月中旬に「ふれ合い体験」参加希望養成校へ出向き、「保育園や子どもの魅力」「ふれ合い体験の流れ」等を直接説明するガイダンスを開催。その際、「ちらし」と「受け入れ園リスト」を配布
- 2 後日、参加希望学生から「電話」で直接参加希望園に申し込みをする。その際、受け入れ園は「受け入れ簿」に参加状況を記録する。また、受け入れ日は、原則学生の希望に沿うように対応
- 3 参加当日は、遊びを通して自由に子どもとかわり、子どもや保育の魅力を楽しむ
「活動当日の流れ」
①参加学生及び受け入れ園担当者に顔合わせ
②参加希望の確認(入りたいクラスや子どもとやってみたいこと等)
③誓約書(参加にあたっての注意事項等)の取り交わし(チェックとサイン)
④希望クラスへの案内と遊びへの参加
⑤活動アンケート(感想など)への協力と解散

3 参加者の声

「ふれ合い体験」の参加者のアンケート結果を一部掲載します。多くの学生が、学びの原動力ともいえる子どもといることの楽しさを感じながら、将来自分がやりたい保育がイメージできたようです。

- ①前回は2歳児、今回は4・5歳児を担当したのですが、考え方や遊び方が全然違うことを実感することができました。
- ②もっとたくさん子どもたちと遊びたいと思いました。現場の先生と子どもたちのやり取りを見て、もっと学びたいと思います。(大学1年生)
- ③子どもとのふれ合いを通して「子どもって可愛い」という気持ちが強くなりました。
- ④活動を通して子どもたちをもっと近い距離から見てみたいと思いました。より近づけば新たな発見があったりして、学びが深まると思います。(大学2年生)
- ⑤保育理念の通り「わくわくできる保育園」でした。子どもらしさを引き出してくれるおもしろい遊びが多く、大人の私もわくわくが感じられ、このような環境で保育をしたいと思いました。
- ⑥保育者が何かを提案するのではなく、子どもと一緒に何かを行うということをしてみたいになりました。(大学3年生)

参加者アンケートの質問：①参加しての「感想」をお聞かせください。
②参加して「もっとやってみたいこと・挑戦してみたいこと」等について聞かせてください。

「ふれ合い体験」のすてきな効果

ミスマッチを乗り越え、養成校と現場で保育者を育てる！

1 「ふれ合い体験」にはどんな効果があるの？

日本保育協会神奈川県支部では平成22年度より県下の養成校と年1回合同会議を行い、養成について議論してきました。平成25年度、「保育士養成校との連携を考えるワーキンググループ」での話し合いから、「ふれ合い体験」が生まれました。当初41園だった受け入れ園は、4年目の今年度は倍以上に増え、連携の輪が広がっています。

「ふれ合い体験」には、どんな効果があるのでしょうか？ 学生にとって実習とは異なるスタンスで保育の現場を体験することができるよう機会であるとともに、受け入れ園にとっても自園の保育を振り返ったり、初心を思い出すきっかけとなったりする等、いくつもの効果があります。また、養成校にとっても、学生が早いうちから保育現場を体感することで、講義の内容をリアルに理解できるようになり学びの高まりにつながる等のメリットがあります。

保育者はすてきな仕事！と実感できた人多数



〈多かった感想〉

- ・子どもがかかわってきてくれてうれしかった
- ・子どもと一緒にいられて楽しかった
- ・子どもが元気で、明るく、可愛かった
- ・プロの保育者はすごい
- ・先生たちが優しく
- ・良い学びになった
- ・良い経験になった

受け入れ園は年々増加



〈学びや気づき〉

- ・保育の魅力について話すことで自園の理解が深まった
- ・学生のアンケートから保育を客観的に見直すことができた
- ・初心を思い出すきっかけとなった

〈反省や課題〉

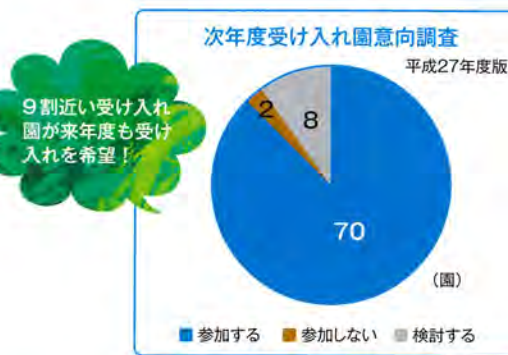
- ・職員への当事業の趣旨の浸透
- ・受け入れ態勢を整える
- ・学生の立場に立ち助言や配慮をする

〈参加する理由〉

- ・保育に関心をもって学ぶ機会としてどんどん活用してほしい
- ・職員の人材育成にもつながった
- ・保育のすばらしさを伝えるのが責務
- ・学生にとって有意義な体験

〈参加しない理由〉

- ・「受け入れマニュアル」に沿えない
- ・受け入れ時期が難しい
- ・職員の負担を感じる



9割近い受け入れ園が来年度も受け入れを希望！



4 受け入れ園 保育者の声

「ふれ合い体験」を受け入れた園の保育者は、どのようなことを感じたのでしょうか。RISSHO KIDS さんの3人の先生にコメントをいただきました。

実習では、部分実習や日誌等で評価されるプレッシャーや就職が迫っている不安感のため、純粋に子どもとのふれ合いを楽しむことは簡単ではありませんが、一方、「ふれ合い体験」は、評価を気にすることなく子どもとのふれ合いを楽しめて、様々な園を見られることは、理想とする保育や憧れの保育者像をイメージしやすくなり、今後の大きな糧となります。

私たち職員にとって「ふれ合い体験」の学生は、純粋に子どもの様子に目を輝かせながら驚く姿から、初心を思い出させてくれる貴重な存在です。未来ある保育者の卵たちが、希望をもってこの仕事につけるよう、お手本にならなくてはと、身の引きしまる思いにもなり、よい刺激をもらっています。

私が学生の時には、保育園はどちらかというと敷居が高く「閉ざされた場所」のイメージが強かったので、受け入れ園が増えていることもうれしく思います。

保育主任 小飯塚由美先生（10年目）

「ふれ合い体験」参加者は、子どもたちとのふれ合いを純粋に楽しんでいるという印象を受けました。自分自身も昨年「ふれ合い体験」に参加した際に、はじめは緊張したものの、次第に子どもと全力で遊ぶことが楽しい、もっと子どもとかわってみたい、という気持ちになり、1日があっという間に過ぎた記憶が蘇りました。「ふれ合い体験」は、日誌もななく気軽に参加できることが最大の特徴です。「ふれ合い体験」を入り口としてその園を知ることへもつながり、実習園の

0歳児クラスでは、乳児にとって最も重要な「個を大切にしよう」とことを意識しているながらも、事故防止などほかにも多くのことに目を配らなければならぬのが現場の実態です。

しかし、「ふれ合い体験」では純粋に目の前にいる子どものことだけを考え、かわるゝことができるため、「個」として向き合うのに最適な機会になると思います。半日という短い時間ではありますが、学生が気軽に現場に足を運び、乳児保育にとって大切なことを自然と学ぶ

選択の材料になると思います。私自身が学生の姿を見て自分が参加した際の気持ちが蘇ったように、保育者にとって保育の原点を感じられる瞬間ではないかと思っています。保育の中でどう動くべきか、今の自分はこれでよいのだろうか、と思い悩んでしまう時がありますが、学生の姿を見ると、まずは子どもが楽しんでいるか、子どもと一緒に自分も楽しんでいるか、という視点に気づかされます。

4歳児担任 吉野壽恵先生（1年目）

ことができます。

実際に参加した学生も、気負っている様子はなく、子ども一人ひとりと落ち着いて向き合っていました。また、その子の気持ちをタイムリーに汲み取り、どのようにかわればよいのかを考えている姿もうかがえました。「ふれ合い体験」で、純粋に子どもと向き合う学生の姿を見ることが、保育者も大切なことを見つめ直すきっかけになると感じました。

0歳児担任 高塚里沙子先生（1年目）



5 これからの展開

神奈川、長崎に続く！
「ふれ合い体験」プロジェクト

神奈川県に続き長崎県長崎市でも連携のプロジェクトが発足！ 初年度市内の養成校5校と共に、たくさんの方の夢をもってスタートしました。その経緯を一般社団法人長崎市保育会青年部部长 吉岡伸太郎先生に報告していただきました。

全国的に深刻な問題となっている保育人材の不足と人材確保に向けた課題は、長崎市内においても緊急の課題となっています。人材確保の問題解決の方策を思案していく過程で、①保育者への夢をもち、養成課程へ進み資格取得したものの、現実（現場）とのギャップへの戸惑い ②保育実践業務以外の業務への負担感や責任に対する不安 ③職場での人間関係 ④長く働く職場としての環境整備 ⑤賃金等の処遇面、といった諸課題を現場でも感じていました。その中でも養成課程で学ぶ学生が、特に①の課題を感じているとの声を多く

聞く機会がありました。調査によれば、保育者は幼少期から高校生まで、常に変わらず憧れの職業として挙げられる数少ない職業です。そのことを非常にうれしく感じた反面、保育現場の責任も感じ、学生が抱く保育者のイメージと実際の保育現場のギャップを解消するために、私たち保育現場にできることがないだろうか考えたのがこのプロジェクトを実施する大きなきっかけでした。その問題解決に向けたアプローチとして、神奈川県で実施されている「ふれ合い体験」事業を参考にさせていただきました。保育者という仕事により魅力的であるために、「保育者になりたい!!」という夢を「憧れ」「希望」へとつなげるきっかけづくりをしたいと考え、実習以外で「子どもとかわる楽しさ」を学生へ提供できるように、「たのしみっ」をテーマに本事業を平成28年7月より実施しました。今後は、本事業の充実を図りながらさらに裾野を広げ保育の魅力伝えていくために、高校生へ向けてのアプローチを課題として検討しているところです。養成校と協力し、高校で出前授業ができれば……との夢を膨らませています。

まとめ

2つのキーワードから新しい保育実習もデザインしよう！

「ふれ合い体験」に参加した学生からは、「子どもと元氣なんです」「疲れを忘れて走り回る姿に感動した」等、肩の力が抜けた感想が多いのです。ある意味保育実習とは異なり、課題意識をもたずに「気軽に」保育現場へ遊びに来て、全くフィルターがかかっていない状態ですべてのものを素直に受けとめている。ここが「ふれ合い体験」の最大の魅力なのだと思います。

保育者のすてきな姿に憧れ、「行つてよかった」「次はこんなことをしてみたい」「勉強不足だからもっと学びたい」とポジティブに言える。それは、この体験を学生自ら「主体的に」選んでいるからでしょう。

この「気軽に」「主体的に」という2つの要素を保育実習にも取り入れられたら、画期的な保育実習に生まれ変わるのではないのでしょうか。

（坂本喜一郎先生談）